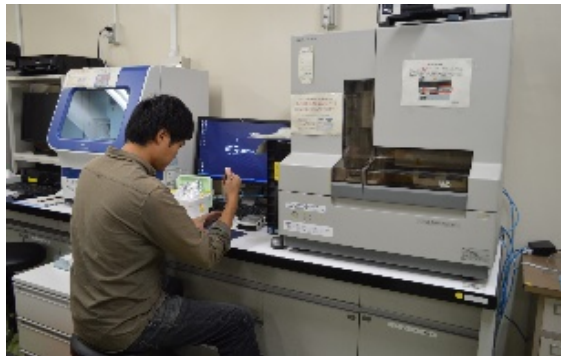
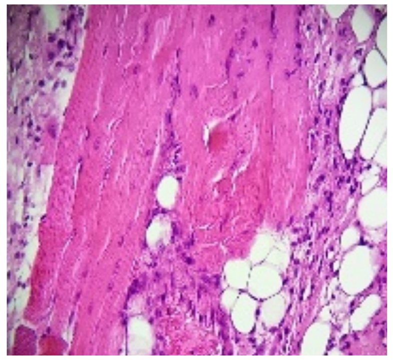
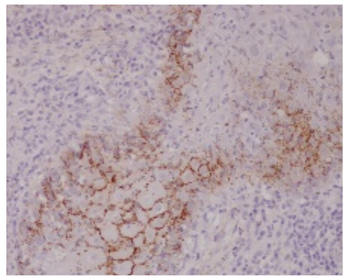
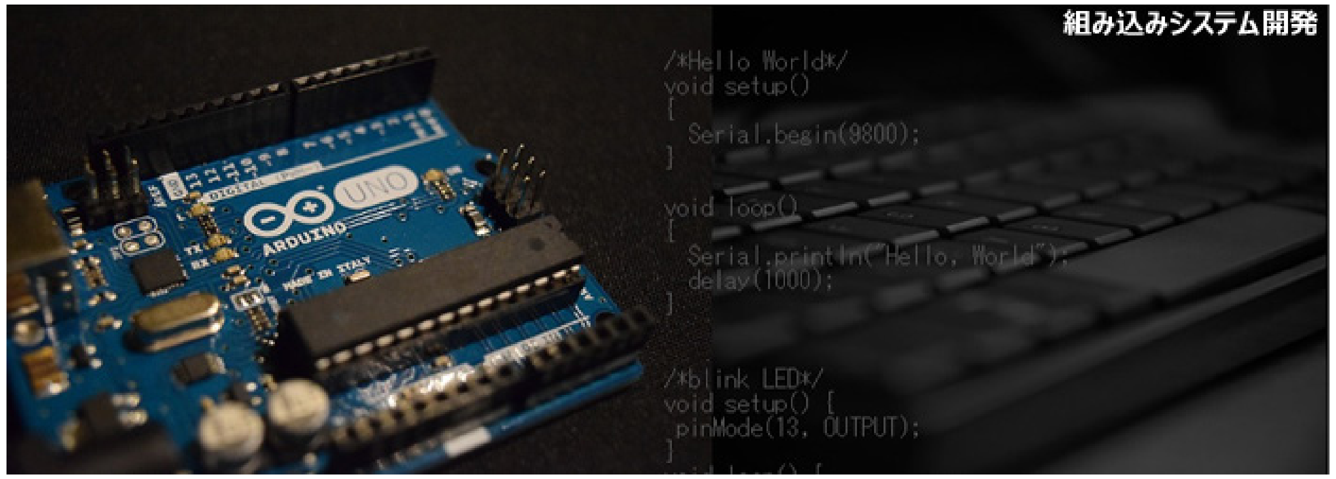
4.10 技術支援部

技術支援部は、教育、研究及び社会貢献に関する技術支援を全学的な見地から行うとともに、技術支援部職員の能力及び資質の向上等を図ることにより、優れた人材を確保し、徳島大学の発展に寄与することを目的として、2017（平成 29）年 4 月に発足した。常三島、蔵本地区の 80 名以上の技術職員らが一元化され、3 つの部門（常三島技術部門、蔵本技術部門、URA 部門）に所属している。技術支援部は今日までに、研究支援ネットワークシステムを中核とした共用機器の利用促進と管理運営、受託工作・受託解析による専門技術の提供、研究開発の効率向上と活性化、学生実習に代表される教育支援、サーバー・ネットワーク管理、安全で快適な研究・職場環境を目指した安全衛生活動、科学体験フェスティバル等の地域社会貢献活動、産官学連携による地域産業振興支援等、全学的に多種多様な支援を行っており、また、学内では機器のリユース事業も支援し、資源の有効活用にも積極的に取り組んでいる。

近年、大学を取り巻く環境は悪化し、財源確保や人材確保の面において非常に厳しい状況となっている。それゆえに、教職員が一丸となって徳島大学の強みである生命科学、医歯薬学、理工学の研究分野を更に強化し、世界から注目され、地域の誇りとなる独創的な研究を創出するための研究体制の構築が必要である。技術支援部はまさにその一翼を担うべく、一元化された利点を活かし、部局の枠を超えた横断的かつ戦略的な人員配置を行うことで、徳島大学の教育研究活動に貢献する。また、研究開発技術においても複雑かつ多様化が進み、これまで以上に技術職員の技術や資質の向上が求められていることから、より専門性を重視した技術習得のための研修、学会や研究会等での発表と情報収集、安全衛生管理等の資格取得といった計画的な人材育成も引き続き行っていく。

技術支援部は、今後も研究所、センター、他部局等とも密に連携し、教育研究支援、安全衛生・社会貢献活動、人材育成を更に強化することで「キラリと光る徳島大学」の実現を目指している。